

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年7月5日】第89号



雨が続くと

梅雨空の毎日、雨が続くと、子どもたちは休み時間になってもグラウンドに出ることができません。体育館か図書室か、あるいは教室で静かに過ごすこととなります。エネルギーを持て余す子どもがたくさんいる中で、ちょっとしたことで言い争いが起きるなど落ち着かない一日になりがちです。

しかし、外に出られない休み時間でも、本を読んだり、絵を描いたり、さらに折り紙、あるいは定規や消しゴムを使ったゲームなど、様々な遊びに夢中になっている様子が見られます。係活動などに取り組む子どももいます。子どもたちには、友だちと楽しく過ごそうとする力が育っているのです。雨の日は、いつもとは違う子どもたちの姿を見ることができるようです。

タブレットを使ったドリル学習

農大稲花小には1学年分の台数のタブレットがあり、授業の中での活用を図っています。3年生に続いて、7月29日(火)は2年生が、算数(計算)や国語(漢字)の習熟を目指してタブレットによるドリル学習に取り組みました。

タブレットの画面上にある漢字の書き取りや繰り下がりのある引き算などのドリルに、タッチペンを使って答えていく子どもたちは、真剣ですが、楽しそうです。ドリルの問題に答えた後は、自動採点が行われ、すぐに間違ったところがわかります。タッチペンは繊細で、トメ・ハネが雑だと正解とはなりません。書き順が違っていると、これも不正解となり、どこで間違っていたかが瞬時に示されます。計算間違いも、すぐにわかります。そして、間違ったところがあれば、子どもたちはもう一度チャレンジして、正解となるまで繰り返すことができます。



授業の様子を見ていると、タブレットを使いこなすことに難しさを感じる子どもはほとんどいませんでした。どう間違えると、タブレットが間違いに気づく(?)か、すぐに気づいた子どももいます。一方、タブレットは上手に使いこなしているけれど、繰り下がりのある引き算のやり方をもう忘れてしまっている子どももいて、繰り返して練習し習熟することの大切さを感じました。

羽ばたけオオムラサキ

農大稲花小にお届けいただいたオオムラサキの蛹(学校だより 第88号参照)ですが、先週は羽化する個体が続きました。3年生の理科の授業に合わせて羽化させるように、理科専科の教員が温度の調節などもしたのですが、別の授業の時間まで羽化がかかってしまうなど、苦勞しました。無事に羽化したオオムラサキは、3年生だけでなく、1年生や2年生にも見られるように展示し、貴重な体験としました。



専科教員から学ぶ

本校では日ごろから、栄養教諭が、食育のための様々な取り組みを全学年で行っています。給食の食材や料理の解説は、毎日おこなわれていますし、トウモロコシの皮をむく体験学習、よく噛むことの大切さを伝える授業なども、担任との協力で行われてきました。

6月29日(火)から1、2年を対象に、養護教諭が学級活動の時間にゲストティーチャーとなって、トイレや洗面所の使い方についての指導が始まりました。低学年では、まだ学校のトイレの使い方がていねいでない児童が見受けられるからです。「次に自分が使うとしたらどうだろう…」「次の人が気持ちよくなつかえるかな…」を考える学びは、トイレや洗面所だけのことではありません。公共のものを大事にする姿勢を学ぶためにも、集団生活における衛生観念を学習するためにも必要でしょう。

担任や保護者の皆様による日々の指導は欠かせません。しかし、栄養や養護など専科教員による専門的な立場からの指導は、子どもたちに強い印象を与え、正しい理解を深めさせる点で教育効果が高いと考え、これから継続してまいります。

初めて「食と農」の博物館へ

7月2日(金)、1年生は学級ごとに東京農業大学「食と農」の博物館を訪問しました。1年生にとっては初めての博物館訪問でしたが、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながらも、博物館関係の皆様にお世話になり、また、博物館の館長で東京農業大学副学長でもある上岡美保教授にもお目にかかる機会を得ることができました。特別展 両極の馬具 一日本人の馬あしらいは、1年生には難しいかもしれないと考えていましたが、ご担当いただいた事務部課長の海野さんと西

嶋さんによるご説明は、子どもたちの知的好奇心を刺激したようでした。

加えて、7月3日(土)に博物館で開催した東京農業大学農友会マンドリン部演奏会のご案内もいただき、早速、土曜日に家族でマンドリンの音色を楽しんだ子どももいたと聞いています。子どもたちが博物館を身近なものと感じ、これからも折々にご家族とともに訪問されることを期待しています。



東京農業大学「食と農」の博物館

<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/syokutonou/info/>

校長 夏秋 啓子